

「定禅寺ジャーナル ウェブ版 デイバート編」

第一回 震災カフェ(1)それぞれの震災体験
2011年6月14日 18:00~19:45

さんだいメディアテーク2F 「3がつ11にちをわすれないためにセンター」

震災で何が変わり何が変わらなかったのか

門脇:「定禅寺ジャーナル ウェブ版」の時間で

す。みなさん、いかがお過ごしですか。私は今、仙台市青葉区定禅寺通りにあるさんだいメディアテーク2Fにきています。ここでは

「3がつ11にちをわすれないためにセンター」が5月から開設されました。今日は定禅寺通りのストリートを離れてここから「定禅寺ジャーナル」を送りたいと思います。

「定禅寺ジャーナル」というのは鈴木太さんが昨年からはじめた、仙台を斬る、現代を斬る批評紙です。鈴木さんは昨年、八戸で派遣切りにあり、沿岸部を仙台まで徒歩で移動、8月からビッグイシュー販売員を始めました。そこで有り余る時間を使って、日々、世界について、生きるということについて、日本について考えました。その結果生まれたのが「定禅寺ジャーナル」です。これを現在進行形、ナマのかたちで見せたいと、路上で Ustream

中継を始めたものが「定禅寺ジャーナル ウェブ版」です。

今回、「3がつ11にちをわすれないためにセンター」のご協力を得て、さんだいメディアテーク2Fを会場に隔週火曜日の18時から定期開催するに至ったというわけです。

鈴木:どうも、鈴木です。ビッグイシューに入れて配っている「ハッピー通信」というものがある、これはお客さんとのふれあいや楽しいものを書いたのですが、どうもこれとは別のものが必要だな、と考えるようになりまして。違う内容で攻めるにはコンテンツを変えないといけないと考え、ほとんど電波的な内容かもしれないけれど、実践というのが私の基本なんで、それを盛り込んだものを「定禅寺ジャーナル」として出しています。読んだ人も少しは感じてくれたんじゃないかなと。

門脇:とうとう「定禅寺ジャーナル」アナログ版、今月(2011年6月)に入って、創刊準備第3号が出ましたね(会場から拍手)。なんとテイク31。鈴木さんのもの「評議会」の「査問」を受けながらの発行です。

鈴木:テイク31というのは、内容があまりに危なすぎたので、そのまま全部ズバリ書いてやうと「おめえ殺されるぞ」というところま

できてしまったからなんです。書けない内容がたくさんあったんですが、とりあえず面倒なので全部書いてみたんです。お前は岡留安則(※注:元『噂の真相』編集長・発行人、ジャーナリスト)じゃないかとか言われまして。

私はタブーをつくってきたのにはマスコミ、メディア含めて責任があると思うんです。今回の報道でも、新聞やテレビを見ていると頭にくるんですよ。結局、一部分だけ切り取るようなかたちでやってくる。宮城県でもひどいところを中心にやっているわけですけど、若林区や宮城野区はクローズアップされていて、七ヶ浜や亘理は全然報道されていない。が、実際相当やられている。本当にやるんならきちんと全部やらないといけないのに、どこかで妥協してしまっているんですよ。亘理あたりになると放射能の問題もあり、上やいろいろなところからストンプがかかっているのかもしれないですが、そういうこと含めタブーをつくり過ぎている。子どもに見せたくないのならCS放送なり、衛星版なり、子どもが視聴しない時間に流すなりして、できるだけ正確な報道をするべき。そうした努力をしていない。ならば実際見えてきた自分がある程度のことを書いたほうがは

るかにいいんじゃないかと書きました。

門脇…被災地にもメジャーな被災地とマイナーな被災地がある。一律に報道できないならば、自分が見たものを確信をもって語りたい、そういう思いで「定禅寺ジャーナル」ができてきたということですね。

気になる内容に移る前にもうひと方、ゲストをご紹介します。太田一彦さんです。

太田…はじめまして太田一彦と申します。

門脇…太田さんはつい最近ドイツに行っちゃったんですね。

太田…そうなんです。4月下旬に2週間ほどドイツに行っちゃいました。鈴木さんの客で、今日はなぜかまぎれこんでいるという状態です。

去年下旬にお店「ハッピーパニック」(※注: 仙台一番町四丁目商店街と定禅寺通りが交差する路上にある鈴木さんのビッグイシュー販売場所)で話をしてみるとすごく面白い。で、通っていたらいつの間にかこんなところまで巻き込まれている状態です。

鈴木…面白い、とかじゃなくて、危ねえオヤジとか思ったんでねえの？

太田…危なさはありません。しかし何かやろうとしているエネルギーを感じて面白いなど見逃しているのはもったいなさ過ぎる、というのが正直な感想です。

鈴木…売るということだけ考えれば、俺のこう

いう毒を出さない方が売れる。売るだけに専念すれば、今の倍くらい売る自信はあるんですけど、正直言って、売ってその先何やるのかと考えるよりは、とことん自分の本音を出していった方が、自分らしくて…それでパーになったんならまた路上からやり直せばという感じ。こうやって電波な話やっちゃうと、明日、(ビッグイシューの)新刊初日ですから、売れなくなるかもしれないけど、どうでもいいです。

太田…もはやビッグイシュー販売員じゃない方が中心になってきている。

鈴木…金にならないことはわかりやってるから、最近。金ください。

門脇…ここで「ビッグイシュー」という言葉が頻繁に出てきますが、知らない方のために解説しておきますと、ホームレス支援のための雑誌です。300円で販売され、160円が販売者に入ります。イギリスで91年に生まれた雑誌で、日本では2003年から販売されています。

鈴木さんはなんと創刊号からのデーパーなファンだとか。

鈴木…どうやら出るらしいと聞きまして、当時、私山形に住んでいたんですが、大阪まで買い

に行ったんです。

門脇…えーっ！

鈴木…なんで驚くんですか。欲しいものがあつたらゲットしに行くのは当たり前だと思いませんけど。待つてるとダメなんですよ、性格的に。それで墓穴掘まくってますけど。

門脇…このエピソードが鈴木さんを物語っているとします。路頭に迷った気の毒なホームレスを支援するための雑誌を売っているはずの鈴木さんが、仙台はじめいろいろな場所で面白いことにアンテナをはっている人を巻き込み、面白い場をつくって行ってしまふ。鈴木さんはビッグイシューを利用して自己表現を行っているわけですね。

鈴木…当たらずとも遠からず、ですね。うちにも支援目的でお客さんが来ますけれど、売りがたくなるんですよ。どうにかして転がして、支援とか言わずに「ただ本を買いたい」という風にできないかなと。失敗も多いです。そういう人は二度と来ません。

門脇…鈴木さんのために本を買ってあげるといふ気持ちで来るとみんな粉砕されてしまうよ。

鈴木…それはちよつと極端過ぎます。

太田…ホームレスを「かわいそう」と思うこと自体がおこがましいですよ。

鈴木…去年の8月12日から販売を始めたんで

すが、初日から仙台市民なんて全部転がしてやるくらいの気持ちで始めました。目つきは悪いし、よくこんな人間から買うなど、首をかしげながら売りました。

太田：初日の売り上げは？

鈴木：20冊くらいかな。なくなっちゃって、仕入れの人にまた持って来てもらって。でも最初から売れるだろうとは踏んでいました。八戸から8日間かけて歩いて来たんですが：八戸で派遣バンクして、ホームレス決定だなど思ったとき、ビッグイシュー売ろうと。そこで札幌か仙台だなと。しかし札幌ではさすがに津軽海峡は歩いて渡れないんで、仙台だなと決めたんです。歩いて来る間はいへんとは思わなくて、ひとりで「経営戦略会議」をやりました、どうしたら売れるかなと。仙台ではビッグイシューの知名度は1%ないだろうと考えました。103万の都市で1万人弱。売場は4箇所だから：とあれこれ考えました。ヒマですから。何かやろうと考えるのと、何も見込みがないと考えるのでは全然違うわけです。ホームレスになったことを絶望的とは全然思っていない——絶望して来る人はたくさんいるんですが——販売4日目に「何年くらい売ってるんですか」と言われました。門脇：こうした鈴木さんの姿勢というものが、

今回の震災後を生きる上でのヒントになるのではないかと、思うわけです。

ここで「定禅寺ジャーナル」創刊準備号の内容の方に戻ってみたいと思います。第1号は私も未読なのですが？

鈴木：SENDAI光のページェント」(※注1986年から行われている仙台市中心部の定禅寺通り・青葉通りのけやき並木にイルミネーションを設置するイベント)のときの混乱について書きました。各方面からいろいろ来ました。あんなところでちんけなことやってるくそおやじに突っ込みいれるなんていいかげんにしろと思いましたが。ま、ページェントはページェントで別にやりましょう。

門脇：そうですね。2号3号が震災関連なので、これを参照しながら鈴木さんの震災体験をたどり、「震災体験」とは何なのかについて議論を深めていけたらと思います。2号、これは衝撃的でしたね。「ひとり災害派遣隊」!

鈴木：官やでかいNPO団体は動き出しは悪い、それに対し弱いものいじめをしているマスコミに文句があります。私はここで官に対し、擁護したいところがあります。官というのはでかい団体ですから、大型戦艦がボタンひとつですぐ動けるか、ということを考えればすぐわかることです。マスコミはそれがわから

ないんですかねって言うことが言いたい。それがわかっていて書くのなら、書く相手がないから書くのか、あるいはそれだけの頭しかないから書くのか。ものが見えない人たちが取材しているんじゃないのかというぐらいおかしさを感じています。

官はうまく使うべきだと思うんです。官が初期で動き出しができないというのなら、誰かがそこまでのつなぎをすればいい。PTSDなどの障がいやケアが早ければ早いほど軽減もしくはなくすることが可能なんです。真っ暗な時間を現代社会の人間が長時間経験したら、相当の人がおかしくなります。私が常に携帯している小型LEDは百円ショップで売っているもので(現物を点灯)、8時間照射可能です。こういうものを持っていけば子どもやお年寄りが真っ暗な中でトイレに行く不安をどれだけ軽減できます。こうした予防も含め、知識を備えたしがらみのない人間が被災地に行くのは当然のことです。

私は元自衛隊でもあり、郵便局にいたことでもあります。今は単なる自営業ですけど、一度でも国の仕事をした人間というのは、一生ものだと思うんです。国のことについては常に考えないといけない。人はひとりでは生きてはいけませんから、動けるんならそういう人

間が動くべきなんじゃないかなと。

太田：鈴木さん、当日以後の動き、相当早かったですよ。

鈴木：いや、遅い。「定禅寺ジャーナル」は私の反省だと思ってます。私の能力だったら当日中に動いてしかるべきはずだったのにそれを2日目になってからしか動けなかった、というのには正直言って失敗です。つまり、まる1日暗闇の状態を経験させてしまいました。

私は世間に批判的なことを書きますけど、それ以上に自分に対して厳しくいかないと、路上で商売なんてできないし、これから自立なんてできません。その分他人にやさしくもしたいんです。

太田：当日からのうごきをおさらいしてみませんか。

鈴木：3月11日は金曜日でしたが、金曜日は一番売れる日なので、かなり気合が入っていました。1時ちよつと過ぎに区役所に用事があったって売場をあげ、それからお客さんが写真の展示をやっているというのでそれを見に行つて、2時半に売場に戻つて来て、それからまた一冊くらい売れました。

報道などで読むのとは違っていて、私の感覚では一気にドンではなかった。最初は波乗りになつたようにふわつときて、次の瞬間ドカ

ンときた。驚いたのは0.1秒。周りの状況をチェックしました。市役所の電光掲示板を見ると消えていました。信号など公共の電気も同様。車はすごい状態になってます。ゆれがおさまってきてからひとまわりしました。AEDは付近に二箇所あるものの、そのうちの二箇所、三越は閉鎖になってしまったのでTICビルだけだなと。

89%の人間が携帯見てるんですよ。まわり見てるんじゃないんです。携帯見ているんです。機械に操られているアンドロイドがいつぱいいるなど白けてしまいました。今、この状況下でこの人たち、まだこんなこととしているのかと。どうせパンクするに決まってるんだからもつと違うこと考えればいいのにと思っていた矢先、60代くらいの女性が頭をおさえ、顔色を悪くしてうずくまっていました。私は看護師なものですから、すぐに問診しました。ペースメーカーが入っているそうで、まわりの携帯がいつせいに使ったせいなのか、糖尿病など既往症もあるせいなのか、とにかく病院へ連れて行くことにしました。

ところが救急車もダメ。知り合いのタクシーを呼びました。タクシーには「鈴木さん、覚悟してくれ」と言われました。「信号もないし無法地帯だ」と。一番怖い思いをしたのは広

瀬通りです。すさまじい状況で、テールツーンズ、サイドバイサイドで、ハリウッド映画か？というぐらいでした。

病院に行ったところ、外来などはもちろん吹っ飛んでいるし、救命救急センターに行っても医師も看護師も病棟の方にみんな行っちゃってる。医師2人、看護師2〜3人に対して、あわててかけつけた人がわけわかんないほど。外来で処方箋を待つ人も相当いたり。

連れて行ったご婦人の件で終わりかと思つたのですが、医師に「このままちよこつとお願ひします」と。「ちよこつとって、どれくらいですか？」と聞くと「午前1時くらいまで」。しょうがないなど。

金もらう気はなかったし——これは私の中ではけつこう重要なんです。金もらっちゃうとゆうこと聞いてちまちまやらないといけないけど、無料奉仕ですから、医師には「てめえ、早くやれこのボケ！」とか、たいしたことない患者には「市販の薬で十分だ」とか、そうとうむちゃくちゃやりました。だから私看護師やれないんですよ。

会場A：話が濃すぎてどれくらいかの話なんです。今、何時くらいの話なんですか。

門脇：(米国ドラマの)「24(トゥエンティフォー)」

見てみたいですよね。

太田 病院に着いたのは何時頃だったんですか。

鈴木…4時前かな。結局午前1時までひっちゃかめっちゃかで。緊急オペとか。

太田…あとおたふく風邪。

鈴木…おたふく風邪にはひっくり返りました。

おい、空気読めよと突っ込みいれてやろうかなど。医師のひとりはトロトロやってるので

脛を20回くらい蹴っ飛ばしてやりました。

タバコは吸えないし、飯は食えないし、その間、どうなっているのか全然状況わからなかつたんですよ。それが反省の第一です。もう

少し冷静になっていけば沿岸部の状況はどうなっているのか聞くことなどできたんでしようが、何しろそれどころではなくて。

看護師が3人くらい来たところで帰りました。そういや、制服まだ返してねえや。

会場A…そのあと一度家に帰って？

鈴木…一緒に帰った人が「すごい状況になつて

るみたいだよ」というのでこれはまずいな、と。家に帰ってから備蓄していたものを仕分けして、夜の町に一度出たんです。市役所、

区役所、県庁など回ったのですが、役所の人

がけっこう出てるんですけど何をしたらいいのかわからないような状態で、号外なのか新聞の早版なのか、はられていて、「なんだこれ

は！」と。避難所の場所を教えてもらおうにも誰もわからない。知り合いがいたので朝6時半に来るから、そのときまでに地図をたのむと脅し、家に戻って備蓄や自分の生命を守るものを準備、寝ずに夜が明けるのを待って行動を開始しました。

まず区役所に行ったもののらちがあかないので市役所へ。気がふれた人間が来たと思われるたでしょうね。市役所で避難所の地図を受け取りました。この状況だと30〜50人の避難所が書いてあるはずだと考えました。私は最初から人数が多い避難所ははずしました。というのには、「定禅寺ジャーナル」（創刊準備第2号）に私の備蓄状況が書いてあるんですが…。

太田…「定禅寺ジャーナル」は今ネット上で見られるんですか。

門脇…鈴木さんからビッグイシューを買つても

らわないと…。

鈴木…ケチなことは言いません。会ったらあげ

ます。

門脇 将来的には出版も考えているんですよ。

鈴木…それまで仙台にいるかわかりませんがね。話をもとに戻すと、30〜50人に対処できる物資を私は持っていたわけではないので、

地図で確認したのは、はずす場所です。（仙台）

市民病院から荒町へ入ったとたん、歩道のブルックが波打っているんですよ。自転車で行くとしたら無理でした。ゴーストタウン並みに車もなく、車道を移動しました。青葉区と比べるとだんだんおかしなものが見えてきました。ただそのへんは避難所どうのこうの

ではないだろうと。勝負はおそらく霞の目の向こうだろう。そこから先、浜の方になっちゃうと支援というよりは遺体しかないだろうと。自分の場合は、過去の災害派遣の基本線は、死者は除外です。生きている人を基本的に考えないとたいへんなことになってしまう

です。

太田…過去の経験というのは？

鈴木…阪神大震災もそうだし、御巢鷹やその他、

官の一員として、あるいはボランティアとしての経験です。何をやらなきゃならないかとい

ったら生きてる人を救うことなんです。それを間違えとんでもないことになるんで、

4号線をこえて霞の目のバス停を少し行つた

ところで警官に止められました。危ないから

と。

門脇…仙台東部道路の手前でしょうか。

鈴木…ちよつと入ったところですが、あまり詳しくは言いません。この放送見た人などが私

にお礼に来たりすると困ります。自分が陥っ

た状態になってほしくないという思いからや
ったことだからです。私はPTSDに2回な
っています。PTSDの一番ひどい状態とい
うのはフラッシュバックです。これはいつい
かなるときに来るかわからず、私は20数年
間、今でも苦しんでいます。ひとりきりで悩
んで苦しんできました。家族がいる方はお互
いになんとか乗り切っていけると思うんです
が、真つ暗な状況を何日も経験するのはちよ
つと違うと思うんです。私が行ったところは、
この真つ暗な状況の中で完全に打ちのめされ
てました。行ったときに、ああ行ってよかつ
たと思えました。わずか1日でこんなに違う
のかと。それで2日目になってしまったこと
を非常に悔やんでいます。

門脇：その後も鈴木さんの大活躍はつづきます。

「ひとり災害派遣隊」につづいて「汎用災害
幕僚小隊」を結成…。

鈴木：これもあまり明かすわけにはいかないの
ですが、スペシャリストによるスペシャルな
活動というのを、いついかなる状況になつて
も立ち上げられるようにと同じ志をもった人
間が何人かをやつていこうと。今後は年2回
ほど会合をもつたり、平時のときだからこそ
できる情報などを研究しながら有事に備える
ものです。

太田：明かせる範囲でどんな活動をしたんでし
ょう。

鈴木：私が行ったところはみんな小さいところ
です。12箇所くらい。避難所とはいえないよ
うな、一般宅にダンボールで「ここに避難し
ています」とか。一番多いところで20数人
持っていくのがたいへんでした。

門脇：鈴木さんが生活保護に入られたのは今年
の2月？

鈴木：そうです。2月20日にアパートに入った
んです。すぐ備蓄品をそろえました。

門脇：それがすごいですよね。

鈴木：当たり前です。私は非常に臆病な人間で、
状況がわからないところに住むこともできない
し…。

門脇：「ゴルゴ13」みたいですね。

鈴木：だって、どういうことがわかるかわから
ないじゃないですか。備えというのは十分に
しておかないと。現役自衛官だったときに危
機管理に関するレポートを書いたことがある
んですが、ベトナム帰還兵の中では臆病型の
人間が生き残ってるんですよ。勇猛果敢で
先陣を切つて乗り込んでいった人はだいたい
「地獄の黙示録」みたいになっちゃってる。
私は臆病でビビリ屋です。みなさん私よりず

つと勇気があると思います。備えもろくにや
らないで生活してますから。私はそんなこと
できません。怖いですから。定禅寺通りでピ
ッグイシュー販売店を始めるときにも、まわ
りのビルにはだいたい入りました。どうい
う構造で何があるのか。それをやった上で商売
やつてます。

会場A：何の経験から備蓄をするようになった
んですか。

鈴木：怖い経験です。十分な備蓄をしなかつた
ゆえにいろんな意味で20年間苦しんでし
まったということがありました。備えには、
備え過ぎということはないです。それぐらい
真剣にやつた方がいいと思います。

太田：具体的な経験でいうと？

鈴木：御巢鷹の件です。ただ、これについては
あまり触れたくありません。

門脇：鈴木さんはこのスーパーマンの大活躍を
失敗であったと評価されているわけですが、
路上からアパートに入ってまだ一ヶ月も入っ
ていない方が、備蓄まで行って被災者に対し
援助を行つていったという事実には我々は驚愕
すら覚えるわけですが…。

鈴木：驚くことじゃないですよ。何回か死にか
けてるし。ホームレスになつたらだいたいは
ショックで落ち込むケースが多いですが、私

は全然そうは思わなくて、勉強できるしいろんなことができる。仮に今回家を失ったとしても、「また次行ってみよう！」みたいな。もっと強烈な経験をしてますし。路上から出て一ヶ月もしないのにどうのこうの、というのは自分には当てはまらないですね。

門脇：逆に言うと鈴木さんのようなスパーマン的な動きがある一方で、そんなことできないよ、という話もあると思うんですね。

鈴木：できる人間がやればいい。できない人間はやらなくていいんですよ。例えばボランティアについてもそうですけど、無理してボランティアしなくていいと思います。やらないこともボランティアだと思っています。

今回ボランティアに来てる人で、地図を持っていない人がけっこういます。「仙台について何を知っていますか」と聞くと「牛タンがおいしいですよ」と。その程度なんですよね。例えば海がどこに位置にあるかを正確につかんでおかないと、余震が来たときにどっちに逃げたらいいのかわからない。そういうことを言うと「携帯あるからいいんです」と言う。携帯のナビは小さいし使い勝手が悪いんです。右も左もわからない人がボランティアなんて、私が主催者だったら即刻帰します。ボランティアなのか迷惑行為なのかという話になっち

やうと思うんです。そこまでできないというんなら300円の募金をするとか、そういうことでもいいと思うんです。ボランティアは強制されてやるものでもない。自分がやれる時間、能力、お金など深く考えて行動すべきです。私は今回、ボランティアという気持ちではありませんでした。心の中では「いざ鎌倉」です。鎌倉幕府5代執権北条時頼が一夜の宿を借りたときに、御家人が飯のかわりに自分が大切にしていた鉢をくべてもてなした。そのときに、「今はこんな状況ですが、いざ鎌倉というときには一番で行きます」と。今でいえば公務員です。私は公務員ではなくなりましたけど、こういうときは動くべきじゃないかと。しがらみもなく、家族もなく、備蓄もしていた。動くのは当然です。やれる人間がやればいい。でもやれない人間が無理してやることはないんです。

何かやりたくてうずうずしている人の話はいっぱい聞きます。だったら自分がどういうことができるのかを考え、それでも行きたかったらちゃんとした準備をして出かければいいし、そこまでできなかったら300円でも500円でも募金すればいい。

「がんばろう」とかいけど、がんばらなくてもいいんですよ。看板とか全部破壊して

燃やしてやろうかなって考えてるくらい頭に来てます。何にがんばるんですか、いったい。阪神大震災の爪あとはいまだに残っています。あれから20年近くたってもまだ終わってません。それより規模が格段に大きいわけですから、もっと長いスパンで考えないといけないのに、トップギアでそんなにやれるわけがないんですよ。誰がやったか問うつもりはないですけど「がんばろう」は少し考えた方がいいと思います。

会場B・鈴木さんは「定禅寺ジャーナル」を誰に向けて書いているんですか。

鈴木：誰でしょうね。もしかしたらトップの間なのかもしれないし、知らない人なのかもしれないし、若い人たちなのかもしれない…。私、45なんですけど、10代20代の若い人たちは30〜50代の大人がどういう言動をしているのか見えます。私も若かった頃、大人の言動に失望していたんですけど、その時感じた気持ちとおんなじじゃないかなあと感じていきます。というのは、正々堂々とい悪い関係なく顔を出して実名でやるような大人があんまりいないと思います。しかも私は何回も人生ひっくりかえって、ホームレスになつたこともあったり、恥ずかしいと思うんですよ。でもあそこで商売始めたときに、すべ

てぶん投げました。なぜかという、生きてくためには恥ずかしいとか言ってもらえないんですよ。でも若い人と話すと、いろんなことを恥ずかしくります。でも若い頃にかく恥って、たいしたことじゃないと思うんです。それにみんなでかくのではなく、ひとりでかく恥に意味があるんじゃないかと思います。そうした彼らが勇気を出せるために、自分は動きたいなど。ネットでは匿名で若い人が意見したりしますが、お互い顔をあわせて違う年代どうして話をしていくきっかけになればと思っています。石ころをぶん投げるくらいにはなればと。

門脇…今、スカイプゲストにつながっています。北海道岩見沢市の遠藤歌奈子さん。弱冠20代ですが、数年前から衰退する商店街をどうにかしたいとアート・プロジェクトを立ち上げ取り組んでいます。

私も含め、鈴木さんが今言われたようなことを、アートによってやっていきたいと震災前から取り組んでいたところがあるのですが、今回の震災によってどんな風が変わって言うたりしているのかなども議論していきたいところですよ。

こちらが遠藤さんが昨年度の報告書として発行したもので、なんとタイトルが「ハッピー

アート新聞」です(タブロイド版の報告書をかざす)。あたかも鈴木さんの「ハッピー通信」に殴りこみをかけるようなタイトルになっています。遠藤さんの住む北海道はほとんど震災の影響を受けていないとお聞きしています。が、そのへんいかがでしょう。

遠藤…岩見沢は寒いので今ストーブをたいいています。

門脇…震災時の岩見沢の状況は？

遠藤…震度4くらいでしたが、ものが壊れるとかいうこともなく、節電も関係ありません。

門脇…実は私が今日着ているTシャツが、遠藤さんたち北海道のみなさんがよせ書きをして贈ってくださって震災応援Tシャツです(立ち上がって見せる)。これのすばらしさは、「がんばろう」「震災復興」「応援」といったコメントはいつさいなく、書かれているのは怪しいブランド名ばかり。そして「門脇さん好き」みたいな。非常に癒されます。そんな遠藤さんが震災エリアでないからこそ鈴木さんに質問があると。

鈴木…こんばんは。鈴木です。

遠藤…こんばんは。遠藤です。はじめまして。

門脇…実はひと月ほど前に私、遠藤さんから電話をいただきました。毎日、私たち、震災に對して何ができるか悩んでるんですよ。

遠藤…まわりが何かしたいけどできないというような感じで悩んでいて、直接行くんじゃないで、ないよと言って楽にしてあげていいのかなと。

鈴木…ヒントをあげたいんですが、中越地震があった年の紅白で、トリに立った小林幸子さんがいつものギンギラギンの衣装ではなくてシックな衣装で「雪椿」を歌ったんですよ。それを聞いてそれまで抑えてきていた人たちがその瞬間ぱっと。私もそれを聞いて泣いたんです。私は中越地震とは関係ないですが、同じ雪国の人間として琴線にふれたというか。歌や音楽、アートというのは、計り知れないくらいの力があると思うんですよ。人間がわーっと来る、それもある意味必要なことかもしれないんですが、アートで表現したり、絵を贈ってもらうなども効果があると思うんですよ。人が来るにはあった場所が必要で、すし、金銭的にも相当かかります。ボランティアはやる範囲内で。無理しないことが次のボランティアにつながるんじゃないかと思えます。参考になったかどうか。

遠藤…こちらでもチャリティイベントが盛んに行われているんですが、実際そういうことをやることで被災地の方に気持ちが届いている

のかなと。

鈴木…届く届かないというのは、心の内面を見れるわけでもないですし、私がやったことについてでも正直、よかったのかどうか答えは出せてません。納得というのとはなくてもいいんじゃないでしょうか。自己満足かと言えばそういうわけでもないし、やれることをほんのちよつとやっていくことが、人と人のつながりになっていくんじゃないでしょうか。答えって、たぶんないんじゃないかと思えます。私もさつきからガンガン言ってますけど、正しいのかどうかかわからないところもあります。いかがでしょうか。

門脇…最近、一点、違和感を感じることに「現地ではボランティアが足りないんだ」という話があるんですね。ボランティアがそこまであてにされるのか。「もっとほしい」というのはわかるが「足りない」というのはどうなのか。

鈴木…私が避難所に行って感じたことなんです。最初は本当にありがたいという感じでもらっていた人たちがだんだんエゴが出てきて、わがままになり、モンスターペアレントに近いような人たちが出てきたりとか。この間行ったときに思いっきり暴れたりしたんですけど、あまりにも聞くに堪えないようなことを

言ってきたりしたので、ここまで来てるのかと。ただ、その人たちがそこまで来てしまった原因のひとつに、官なり民間のNPOが入って——手厚くするのはいいんですけど——でもえんえんと、(食事です)はい並びなさいを1日3回つづけていったらもうなんにもやりたくなくなるんですね。どんどんわがままになるんですね。こういう方法も少し考えていくべきじゃないかなと。私の場合、いろいろ手伝ってもらいながらやっていたんですよ。だからだんだんやれることも出てきたり。怪我をしても、リハビリをしないでいたらいくら治ってきたからといったも歩けなくなるじゃないですか。やらなかったらどんどんやれなくなっていくます。

門脇…そのへんの匙かげんというのは非常に難しいですね。悲惨な避難所もあれば、お膳で3食出て来る避難所もあり、格差は千差万別で、それをどうするのか。まあ、どうもできないうけです。

鈴木…新聞やマスコミ通じて美談的なものが非常に多いですけど、その裏で相当ひどいことはたくさんあります。物資を持っていったときだけお金がないふりをして、その後焼肉を食べに行ったり。あんまりひどくて、一度現場をおさえて暴れたことがあります。

門脇…反対にまったくお金が手元にないし、入らないという人もいるでしょうしね。

鈴木…そうですね。格差が激し過ぎるんですよ。手厚くいつているところはものがあまっているし、ないところはいまだにあつたかいものを食べたことがないという話になっちゃってる。

昨日、仙台市の職員と少し話をしたんですが、仮設住宅がだいたいできあがったんですが、仙台市内で避難している人よりも戸数が多いです。全員避難してもOKなんです。でもまだほとんど入っていないんだそうです。理由は簡単です。入った瞬間、全部自分たちでやらなきゃならなくなるからです。

太田…入ることで支援が断ち切られると？

鈴木…まあ、そういうことです。これはホームレスもしくは発展途上国に対する支援と似ています。いつまでたっても発展途上国は支援を受けなければやっていけない。やっていけないのではなく、それだけ手厚くやられたら、みんなやらなくなっちゃうんですよ。ホームレス支援も全部悪いというわけではないんですが、緊急避難というものを本当に認識しているのか、ということ。正直、私は仙台で365日、何もしないでも食べていきます。蛇の道は蛇で、そういうノウハウはあります

から。ですがそれをやらないというのは、そういうことをしたくないからです。自分でやりたいからなんです。

3月12日からほぼ3ヶ月間、ずーっと支援を受けてくると、避難所にいる人も何もしたくなくなると思うんです。そうしないためにはアメとムチを使い分けながらやっていくことが重要なんじゃないかなと。

太田・ビッグイシューのやり方は食べ物や住む場所ではなく、本を売る仕事を与えるというのが主旨。被災している方にもただ食べ物を送るのではなく、その後の生活を自分たちでつくっていきけるような裏側のサポートが必要なのかなと今の話をうかがっていて思いました。

鈴木・大なた振るわなきやならないところは振るわなきやならないんだけど、それと同時にきめ細やかなフォローをしていかなきゃならないんだと思う。50点くらいのところからいかに100点に近づけていくっていうか。そういうことをやっていかないと、0点以下になりますよ。

門脇・このへんでご参加いただいているみなさんにも、震災体験など語っていただいてもよろしいでしょうか。

会場C・うちは大丈夫だったんですが、仙台市

民会館のまわりに縁があつて、このあたりのマンションの4階以上のうちの家具はすべて倒れましたね。3月12日もそうだし、4月

1日の余震も、60度（揺れの）角度が違うんですね。一生懸命手伝いました。

平時時は女性が活躍しますけど、濡れ落ち葉とか言われている壮年、定年なんかになるといらないとか思われがちな男ですけど、非常時には男が必要だなと。力があるだけでなく、動きが違いますね。非常時には女性は萎縮するようところがあつて、こんなに違うのかと。私は21世紀は女性の時代だなどずつと思つてたんです。でもやっぱりこういうこともあるんで、男がしっかりしないといけないなと思いました。

門脇・役割があるということですよ。

会場C・平時時にはそれを忘れてしまうんですよ。女性は元気で、男は元気がないっていう。

鈴木・男性って、大石内蔵助でいいんですよ。

昼行灯でいいんです。何かがあつたとき大なた振るうと。よくマスコミなんかで草食系とか言われますけど、嘘です、あんなの。マスコミって発想が貧困過ぎます。もう少し勉強しなさいって言いたい。

会場C・大事なのは男が、平時時にこそ非常時のために何をするかと考える磨くということ

を忘れないでいれないといけない。男性の方が女性よりも非常時に何かをやる素質があるように思えます。

門脇・男性／女性という話が出てきましたけれども、私が今回目を見張つたのは商店街の動きですね。個人商店というのは、高いし品揃えは悪いしすぐ閉まってしまふので平時時にはあまり使いませんが、今回うちの近くの商店なども大活躍でしたね。

会場C・それはうちの近くもそうでしたね。

門脇・今までだと商店街は文化的な意味があるんだとか、地域の絆がどうこうとか、要するにきれいごとで残さないといけないんだという感じがあつたと思うんですが、そうではなくて今回、現実問題として本場の意味でセーフティネットなんじゃないのかと。

会場C・おそらく本質が出てきたんだと思う。

さっきの男性の話も男性のもつ本質が非常時に出てきている。商店街も普通は大型店とかが便利だけれども、非常時に個人商店のもつ役割とか力みたいなのが出てきた。震災によつて本質が見えてきたんだから、もつとひとつひとつ考えていきなさいという教訓、そしてそれが東北で起きたということも、おそらく東北にそういう使命があるんじゃないかなと。東北の使命は重いですし、いろんな人

材がいるのも東北。いろんな本質が見えてきたのが今回の震災だったんじゃないかなと思います。

鈴木：私がどうしても違和感を感じるのは、震災のあとふれあいがあったとか言いますよね。

去年から定禅寺通りに立って商売やってますと、自分勝手に自分はひとりで生きてるんだというようなタイプの人間が非常に多くなったんですよ。で、そういう人たちが、震災に合ったときにひとりで生きていけるのかなと思ったら、みんな避難所に行ってるんですよ。

普段は勝手なことばかりやってて、そういうときだけ（避難所に）「行くのか」と相当突っ込みいれたくなったんですよ。

で、変わった変わったっていうけど、いえ、もっと悪くなりました、はつきり言って。あの地震のことを忘れ切ったように路上で喫煙してゴミぶん投げる、自転車は乗って悪いところでも乗る。前よりひどくなりました。みんなが何かを学んだなんてあれはおそらく嘘です。俺はだからセーフティネットもくそもないと思います。

仙台って、そこまできちんとしたものがないんですよ。もともと私は仙台の人間じゃないから、これはよく見えます。これを言っちゃうと俺の店はあんまり売れなくなるかもしれないけど、ちゃんと言つとかないとあつてもつとたいへんなことになるから私、あえて言いますけど、本当に自分のことだし考えないといとんでもないことになりますよ。俺みたくになつちやったら、どうしますか。俺だつたらまた復活できますけど、（みなさんは）できませんよ、たぶん。ということを私言いたいです。

門脇：鈴木さんがそこまで確証を持っていえるのは、月に一度、「仙台ダストスポットミステリーツアー」というのを開催していて、毎月第一土曜日朝7時から仙台のアーケードすべてをボランティアでゴミ拾いするというのを昨年11月から行っているんですね。私も2回ほど参加したんですが、だんだんとゴミの量が増えてきていますね。ゴミだけでなく吐いたものとか、国分町に近くなるにしたがいゴミの量、マナーが悪くなる。

震災によってマナーがアップした、ということではないと思うんですよ。何が気づかれたのかというと、人と人のあたたかいつながりとかいうものではなく、本当に食料確保が必要なんだということが気づかれたんだと思うんですよ。そういう意味で先ほど商店街の例をあげたんですが：震災後のマナーについて鈴木さんから指摘が来しました。

鈴木：自ら望んで自分たちの住んでいる町で自爆テロをするようなものです。私、仙台大っ嫌いでしたけれど、去年からやって、定禅寺通り含め、仙台の町が好きになってきました——山形生まれなんでベガルタは応援できませんが。だから私を失望させないでほしいんですよ。もつと自分の町を大事にしてほしいんですよ。そのためには自分勝手な人たちが減っていかないといい町になっていかないと。思います。ハコはあるしいろんな企画はあるんだけど本当に自分の心に響くものって、正直いってあんまりないんですよ。

門脇：「定禅寺ジャーナル ウェブ版」はみなさんが出演者です。生で来ていただくほかにもネット上からも参加できます。ここまでのところ、ツイッターでは「3がつ11にちをわすれないためにセンター」さんがつぶやいてくださっているツイートを中心に何件かRTされている他、横浜のアートラボ、オーバさんから鈴木さんの愛称を考えてほしいというリクエストが届いています。「鈴木さんて、愛称とかないのですか。世の中、鈴木さんだからで愛称とかあるとイメージしやすいのですか」：これはペンディングにしておいて、引き続き会場からのご意見をいただきますよう。

会場D：マナー違反って、それは悪いことだと

は思うんですけど、地震とかがあって、不安があつて、自分が以前していた行為をすることで落ち着くっていうことがあると思うんです。もちろんポイ捨てとか悪いことですけど。

鈴木…なかなか面白いですね。

会場D…自分にはそういうのがあるんですね。

鈴木…気持ちはわかります。普段やってることをやることで、いろいろなことを取り戻すというのはあると思います。自分が言いたいのは、治安も悪くなってるんですよ。これが怖い。国分町は意外と治安がいいんですよ。立町含めて裏通りがありますよね。子ども女性を通してたくないです。

会場D…実際、事件があつたりするんですか。

鈴木…私、パトロールもしてるんですけども、実際あるかないというよりも、出てないからこそ怖いというか、強姦未遂とか表面に出て来ないじゃないですか。どんちゃんやってるところは人の目もあるし、治安が悪いように見えて意外とそうでもないんですよ。秋葉原あたりと違って仙台は監視カメラがあちこちあるわけじゃないし、盲点になってるところがたくさんあります。私はそういうところを逐一チェックしていて、これも「定禅寺ジャーナル」で書いていこうと思っています。ゴミうんぬんになぜ私がこだわるかというと、

80年に冬季オリンピックをやったくらいきれいな国だったユーゴスラビアが、それから10年もしないうちに内戦が起こつて国がめちゃくちゃになった。旧ソ連も解体。この二箇所に通ずるのって、汚れが目立ってきたことなんです。町中の汚れが目立ってくるって人の心も乱れてくるんですよ。それに今の仙台が似ていると思います。

仙台には5つの区がありますが、それらが非常に乖離している。青葉区を除く、例えば宮城野区や若林区の人たちと定禅寺通りの売場で話をする、「このへんの人たちって、あつてかんとしてるね。何もなかったみたいだね。いったい何なのかな。俺の家の周りがかやくちやなのを見ると、ホントに同じ仙台なのかなあつて、嫌になるから青葉区に来たくないんだ」という話を聞いたりもするし、被害の出ているところとそうでないところの差がすごい。

太白区も元は秋保町だったところもあるし、青葉区も元宮城町だったところがある。泉区はもともとは泉市でした。本当に寄せ集めでできていて、今回の震災をきっかけにうまくビタつとすることが可能だと思ふんですよ。ただこのままいくとおかしくなるんじゃないかあと。

私の考えが極端過ぎるかもしれないし、考え過ぎなのかもしれないです。だからあえて違う人の意見も聞いてみたいなと思ふんですよ。門脇…先ほど会場の方が言われたポイ捨てによって震災前の生活を取り戻すとか、今の鈴木さんの社会主義崩壊前後のユーゴスラビアのお話を聞くと、例えば、ゴミを捨てられるのはそれだけ「自由」だという発想もあるわけですよ。そんな「自由」にどんな価値があるんだという話もあるわけですが。震災の時に瓦礫の映像が流れる一方でリビアで戦争をやっているのを見て、一瞬「リビアって、平和だな！」と、思わず不謹慎ながら思つてしまったんですね。つまりゴミを捨てられるだけ自由で豊かでタガがはずせるという見方もあるんじゃないか。

鈴木…戦争やれるほどヒマがあるのかもしれないし。

太田…話が変わるんですが、平常時という話から思つたことがあつて、今まで異常事態だったじゃないですか。それこそ今まで通りの生活は続けられない状態にとりあえずしばらくはあつて、中心部はもうほとんど戻つてるんですけど、せつかく普段じゃない生活があつて、それこそこらへんは夜もちゃんと暗くなつたりして、で、夜暗い生活も意外とい

よな、という風に思えたりしないのかなと。

せっかく違う生活を強制的にせよ味わってしまったんだから、逆にその中で今までなかったもつといいものというのを探すということもできたんじゃないかなと。自分の家自体はあまり被害はなかったんですけど、震災を経過してもし元に戻っちゃったんなら、それって残念なことだな、と。自分が関わっている会社があるんですけど——私はフリーランスのカメラマンで、社員ではないんですけど——それこそみんな家もめちゃくちゃだったりして会社に来ることもできない。でもインターネットの技術もあるし、そこに行って仕事するだけが仕事のやり方じゃないはずだからって、こういう機会を使って新しいやり方を考えたりしたらいいんじゃないかなと思ひ、考えたりひとりで調べたりしていたんですけど、意外にも早く元に戻ってきちゃったせいで普通になっちゃたという、がっかりしている部分もあります。

会場D…戻らなくていい部分も確かにありましたね。あれでも別にいいんだなという。両方ありました、戻って安心する部分と、変えられるチャンスがあったという。

太田…コンビニ24時間あけなくてもいいんですよね。ちゃんと日曜日休めばいいじゃんみた

いな。

会場D…町の明かりもこんなにいらなかなとか、そういうのはありましたね。

鈴木…暗くなると、人間、寝るんですよ。昔の吉原じゃないんだけど、めちゃくちゃ明るい状況だとみんな寝れなくなるし、寝れないと疲れてくるし、不眠につながったりもするし。ただでさえストレスが多い社会の中で少なくとも暗いつているのは、悪くないと思うんですよ。

太田…身体と心を休める時間というのを、これをきっかけに考え直したらいいんじゃないかなと。

鈴木…生活に工夫を持たせるといふか。工場などの電力を削減することは国際競争力ということを考えればこれ以上は無理なんですよ。ということ、一般市民の生活というところである程度やりくりしていけばいいんだけれど、例えば公共交通機関を使って自家用車を使わないとか、電気を消すとか。うちのお店も前は11時まで電気がついていましたんですけど、今は6時まで完全に消えちゃうんで、6時になったらこういうのをつけて（といって小型LEDライトをつける）、少し怪しいアダルトな感じにすると、それに見合うような人が買いに来るわけですよ。「あれ、ここエロ本屋

だっけかな」とか。健全な本のはずなのに、なぜか（ビッグイシュー）145号レディ・ガガあたりを「こいつよお、ノーブラでよお」とか。そういう怪しげな人が来るとこっちもそういう健全じゃない人の方が好きなんです。ああそうか、違う客層が来るなあとか。不便さを楽しむというか。

太田…ちよつと不便でいいじゃん、その分何ができるという考え方にシフトできないかなと。鈴木…不便な方がいい部分でいっぱいある。

太田…何でもできちゃうとそこまでしかやんなくて、不便だと考えるからもつと先までいける。鈴木…まあそうです。不便も悪くない。

会場D…地震の日、近くの小学校に行ったんですね。そこには周辺の住民の方もいっぱい集まっています、大人は疲れてくるんですよ。しかめつ面になるし、下向いて回復を待つみたいになる。小学生の子たちは友達同士、夜に集まってるからテンション高いんでしょけど、「星がすごい」と駆け出して行って楽しんでいる。僕もそれを聞いて見に行っただけで、きれいだなと思ってもそういうのを素直に他の人と語り合うという事はないんですが、子どもは素直にその状況を楽しんでいたのが印象に残っています。

太田…僕も3日間ほど避難所にいたんですが、

そんな感じでした。沈んだ空気の中でも子どもたちだけは無邪気にはしゃいでいたりして。

鈴木…3日目って、俺、山形にいたんで。2日目の第一回目の災害派遣が終わってから、俺の手元に物資がなくなっただけです。仙台市内で物資を手に入れるつもりは全くなかったんですね。なぜかというとなんか並んでるし、ないし、だったら山形だなと。タクシーに言ったらまだちょっと無理だと言われたのでしようがないので歩いて行っただけです。夕方4時に出て夜10時くらいに笹谷のつべんくらいまで行っただけ。そのときってもう親の敵みたいな感じで、歩くのか走るのがかわからないくらい。自衛隊では100キロ行軍とかあるんですけど、装備品がでかいんですよ。50キロとか60キロとか。軽い状態だと本領発揮して歩いたこと今まであまりないなあと。八戸から来る途中というのは飢餓との戦いというのもあったのでパワー全開で来たわけではなかったんですよ。笹谷までおそらく45キロから50キロを6時間だからほとんど走る並みに行ったのかなと。身体がめちゃくちゃ軽くて、「なんだ楽勝じゃん」と。釜房ダムに8時半くらいに着いて「あれ？俺、こんなに速いのかな」と。俺ってけっこうおじさんの割りに動けるなと(笑)。だからけっこう楽し

かったです。

自分の基本って、完全に落ち込みっていうところまでいかないです、女性がらみじゃないと(笑)

太田…そこ(笑)

鈴木…女性がらみ以外だと、俺、意外と強いんですよ。ところが女難の相とかに入っちゃうとこれが。仙台がらみでも女で一回失敗してるし、不倫してないのに結果的に不倫になっちゃったとか：俺、自分の暴露話するの大好きなんです。やっぱり恥ずかしいこととか、失敗したことって、そういうことから優先的に言っていくと、世界観変わります。話せる話が増えます。確かにあいつバカじゃないのかという評価もあるかもしれませんが、秘密がないって、すごく楽なんです。悪い話とか全部やっちゃうともう怖いもんねえな。なんて。ちよこつとはありますけど。門脇…震災という外部的な条件によって、我々は以前の生活を制限されて、それによって見えてきたものがあつたにも関わらず、現在では元に戻りつつあり、それをあたかもなつかしむような部分もあると。とはいえ、震災を経ってしまった以上、決して戻れない部分も確実にあるわけですよ。もうこの震災を通つてもものを見てしまったのでこれではできない、

これはダメ。あるいは以前はムード的なものとか、根拠がいまひとつ薄弱だったものが、本当にこうじゃなきゃダメになった。こういった新しい状況が震災後生まれてきているんだと思うんです。これに関しては再来週9月28日(火)「震災カフェ(2)」震災から見えてきたもの」ということでまた鈴木さんとお送りしていきたいと思えます。

ほとんどメンバーを増やしながら、そしてまたネット上でも素敵なスカイプゲストやツイッターゲストの方呼びつつ、「定禅寺ジャーナル ウェブ版 デイベート編」どんどん発展させていきたいと思っています。今日はみなさん、どうもありがとうございました。一回…ありがとうございます。

門脇…あ、スカイプまだ(北海道の遠藤さんとつながっていたそうです)。

鈴木…放置プレイだ(一同、笑)。